



世界に向けた情報発信

本研究所は、本学園を代表してアジア・太平洋地区公衆衛生学術連合体 (Asia Pacific Academic Consortium for Public Health:APACPH) のメンバーである海外の教育・研究機関との連携を取り、国 際学術会議での講演や発表を積極的に行っています。国際交流で重要な点は、本研究所の成果が世界的 に寄与していることです。一例として、栄養クリニックの血清リポ蛋白質を対象とする国際共同研究が 国際医学誌で最高の被引用数を誇るThe New England Journal of Medicineに発表された後、多数の 国際論文で引用され、大きな貢献をしています。最近では、本研究所所長が「日米の栄養摂取量の新型 コロナウイルス感染への影響」と題した論文を栄養系の医学雑誌として有名な Nutrients 誌に発表しま した。また、2021年には本研究所が行ってきた研究活動および社会貢献の内容をまとめた論文が、国際 学術誌 Asia Pacific Journal of Public Health (APJPH) に掲載され、海外でも広く認知される機会と なりました。さらに、本研究所副所長はアジア・太平洋地域の大学の客員または兼任教員を務めており、 本学園における国際的な学術および国際交流が研究所を窓口として行われています。

これまで本研究所は、前述の「さかど葉酸プロジェクト」や、文部科学省から選定された「ハイテク・

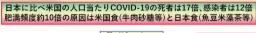
リサーチ・センター整備事業」による モンゴル、タイ、中国、パラオなどの アジア・太平洋地域の国を対象とした 多国間比較調査などの大規模プロジェ クトの成果から「遺伝子栄養学」「時間 栄養学」「精神栄養学」など革新的な視 点から栄養学の発展に国際誌を通して 貢献してきました。これらの活動から 蓄積した科学的根拠に基づいた知見を 基に、実践的かつ最先端の情報をホー ムページや講演会を通して社会に発信 しています。

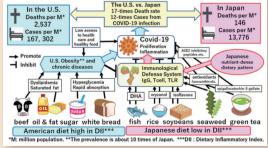


2007年に坂戸校舎で開催されたAPACPH国際会議には世界25の国と地域からおよそ 500人の研究者が集まりました



Nutrients誌に投稿した 論文要旨





Nutrients誌に投稿した論文解説

Kagawa Nutrition University

The Roles Played by the Institute of Nutrition Sciences, Kagawa Nutrition University on National Nutritional Crises in Japan

APJPH誌で研究所の歴史を紹介

